

第5章 数値目標

本計画を効果的に推進するため、本市の状況や国、大阪府の設定した数値目標などを十分に勘案して平成26年度における数値目標を設定し、施策・事業の成果や達成状況を客観的な評価指標で把握できるようにします。

評価指標		現状値(平成21年度)	目標値(平成26年度)
①食育に関心を持っている人の割合	泉大津市	乳幼児保護者：87.7% 小中学生保護者：82.2% 一般市民：85.4%	<u>95.0%</u>
	大阪府	89.0% (平成17~18年)	95.0% (平成23年度)
	国	70.0% (平成17年度)	90.0% (平成22年度)
②食育に関する自主的な集まり（サークル）に参加する人の割合	泉大津市	乳幼児保護者：8.4% 小中学生保護者：4.1% 一般市民：11.9%	<u>20.0%</u>
③朝食を欠食する人の割合	泉大津市	幼児：1.5% 小学5年生：3.4% 中学2年生：6.7%	<u>0.0%</u>
	大阪府	7~14歳：4.0% (平成17~18年)	7~14歳：0.0% (平成23年度)
	国	小学生：4.0% 20歳代男性：30.0% 30歳代男性：23.0% (平成17年度)	小学生：0.0% 20歳代男性：15.0%以下 30歳代男性：15.0%以下 (平成22年度)
④食事バランスガイド等を参考に食生活を送っている人の割合	泉大津市	乳幼児保護者：14.8% 小中学生保護者：19.5% 一般市民：33.8%	<u>65.0%</u>
	大阪府	24.0% (平成17~18年)	60.0% (平成23年度)
	国	—	60.0% (平成22年度)
⑤メタボリックシンドローム*を認知している人の割合	泉大津市	一般市民：88.8% 小中学生保護者：91.8%	<u>95.0%</u>
	大阪府	52.0% (平成17~18年)	80.0% (平成23年度)
	国	—	80.0% (平成22年度)
⑥農業に関する体験活動（教育ファームと同様の定義）を実施する保育所、幼稚園、小中学校の数	泉大津市	未実施	<u>増加</u>

評価指標		現状値(平成21年度)	目標値(平成26年度)
⑦食事の際、あいさつをする人の割合	泉大津市	小学5年生：71.2% 中学2年生：48.7% 乳幼児保護者：71.8% 小中学生保護者：65.8% 一般市民：55.9%	<u>80.0%</u>
⑧食べ残し等を減らす努力をしている人の割合	泉大津市	小学5年生：43.4% 中学2年生：34.7% 乳幼児保護者：61.4% 小中学生保護者：69.6% 一般市民：65.7%	<u>80.0%</u>

数値目標の設定の考え方

①食育に関心を持っている人の割合

国や大阪府において数値目標として設定されており、なおかつ、本市では市民の食育への関心を高めるにあたって、数値目標に設定しました。（現状値は、食育に関するアンケートで、食育について「関心がある」および「どちらかと言えば関心がある」と回答した人の割合）

②食育に関する自主的な集まり（サークル）に参加する人の割合

食育に関する活動があまり活発ではなく、多くの人が実際の取り組みにつながっていないという本市の現状を踏まえ、また、地域における食育の担い手や活動の育成・支援を進めるにあたって、市独自の数値目標として設定しました。（現状値は、食育に関するアンケートで、食育に関する自主的な集まりについて「現在参加している」および「過去1年間の間に参加したことがある」と回答した人の割合）

③朝食を欠食する人の割合

国や大阪府において数値目標として設定されており、なおかつ、本市においても小中学生の朝食欠食などの生活リズムの乱れが見られており、それらの改善を図っていくうえで、数値目標に設定しました。（現状値は、食育に関するアンケートで、朝食について「ほとんど食べない」と回答した人の割合）



④食事バランスガイド等を参考に食生活を送っている人の割合

国や大阪府において数値目標として設定されており、なおかつ、本市において食事バランスガイドを参考にしている保護者が大阪府と比較して少ない現状を改善していくうえで、数値目標に設定しました。（現状値は、食育に関するアンケートで、食事バランスガイド等について「ほぼ毎食参考にしている」および「毎日1食は参考にしている」と回答した人の割合）

⑤メタボリックシンドロームを認知している人の割合

国や大阪府において数値目標として設定されており、メタボリックシンドロームの認知率を向上させ、食生活の改善を進めるために、数値目標として設定しました。（現状値は、食育に関するアンケートで、メタボリックシンドロームについて「言葉も内容も知っていた」と回答した人の割合）

⑥農業に関する体験活動（教育ファームと同様の定義）を実施する保育所、幼稚園、小中学校の数

国では、「教育ファームの取り組みがなされている市町村の割合の増加」が食育の推進の目標として設定されています。また、本市における食育推進の方向性として、「食の大切さを理解し、食への感謝の念を持つための“体験活動”の推進」が設定されており、今後、農業に関する体験活動（教育ファームと同様の定義）を促進し、充実を図っていくにあたり、市独自の数値目標として設定しました。

ただし、本目標については、各保育所、幼稚園、小中学校の独自性を尊重し、数値目標ではなく、現在の実施数より「増加」させることを目標とします。

⑦食事の際、あいさつをする人の割合

本市における食育推進の方向性として、「食の大切さを理解し、食への感謝の念を持つための“体験活動”の推進」が設定されており、食に関する体験活動の成果・効果を確認するにあたって、市独自の数値目標として設定しました。（現状値は、食育に関するアンケートで、食事の際のあいさつについて「必ずする」と回答した人の割合）

⑧食べ残し等を減らす努力をしている人の割合

本市における食育推進の方向性として、「食の大切さを理解し、食への感謝の念を持つための“体験活動”の推進」が設定されており、また、本市において、子どもの食べ残しへの意識が低く、減らす努力などの行動にもつながっていない現状を改善していくうえで、市独自の数値目標として設定しました。（現状値は、食育に関するアンケートで、食べ残し等を減らす努力について「いつもしている」と回答した人の割合）